



今号のLiMeでは、9月に香川県で行われた、第6回大学図書館学生協働交流シンポジウムについて紹介します。

第6回大学図書館学生協働交流シンポジウム



考えよう！
大学図書館学生協働の未来



みんなで考えよう 大学図書館協働の未来。
ほら 勇気をだして 自分の思いをみんなに伝えよう。
香川に集う仲間たちと 心を開いて これからの学生協働の姿を語ろう。

1日目

日付：9月15日(木)
場所：香川大学
内容：講演、ポスターセッション、交流会

講演会



「エンターテイメントの現場から学ぶ学生協働経営論」

講師：森下信雄さん

内容：**テーマは発信者になろう**

宝塚歌劇の世界観と美意識について

衣装舞台作り、販促まで行う

独自の世界観をファンとともに作り、提供するブランド

→他との差別化

ビジネスモデル→一つの組織で作品創作。

〇コミュニティを作るとは？

居心地の良い場所を提供し、ルールを作って守らせる
→家、学校、会社、地域とも違う、誰もが利用できる第四の空間の提供

利用者と運営者の間で共通認識を作り、そこでしか生むことのできないコミュニティを提供する。
→図書館でも応用できる

ポスターセッション

ポスターセッションでは、島根大学の企画活動紹介を行いました。絵本の読み聞かせや図書館すぐろくの企画は他大学から関心を寄せられました。



伊藤君によるショートプレゼン

〇他大学のポスター・ポスター内容

山口大学工学部：留学生版図書館HP
高松大学：絵本の読み聞かせ
神戸大学：司書さんによるキャラクター、グッズ制作



〇他大学からの質問

- ・絵本の読み聞かせはどこでやってる？
- ・図書館すぐろくとは？
- ・読書会の宣伝方法と、先に読んでくるのか？
- ・N1グランプリの票数



参加者の感想

今回、初めてシンポジウムに参加させていただきました。シンポジウムに参加したことで、他の大学の図書館で活動されている学生の方と交流することができ、更にそこで行われている活動について知ることが出来たので、今後の活動に生かしていければいいなと思います。(松永)



一日目の森下さんの講演では、図書館コンシェルジュの活動にも関わってお話をいただき、二日目の他大学の方と一緒に図書館内での新たな企画を立てるというプログラムでもとても参考になりました。また、その二日目に行われた企画立案とポスターセッションは、全くの初対面の人たちと短時間のうちに意見を交わし、まとまなければならないというもので、中々難易度の高いプログラムではありましたが、大変貴重な体験で、総合してもとても有意義な二日間となりました。(畠田)



2日目

日付:9月16日(金)
場所:香川大学
内容:ワークショップ
「チキチキ! 第1回学生協働企画
・プレゼンバトル2016」
香川大学図書館中央館見学

他大学の活動というのはそれぞれの大学図書館のブログやFacebookなどでも知ることができますが、その大学図書館で行っている活動の実際のところというのは、話をしてみることでは深く知ることができないと思います。今年度のシンポジウムでは、多くの、様々な大学図書館の方々(学生だけではなく職員とも)とお話をする機会がありました。活動での苦労話や表面的にはわからないちょっとした工夫など、様々なお話を聞くことができました。僕達図書館コンシェルジュは、この知得た意見を自分達の大学で生かし、今後も活動を行っていききたいと思います。(伊藤)



ワークショップ

「チキチキ! 第1回学生協働企画・プレゼンバトル2016」

○グループワーク

グループに分かれて企画案の作成。
学生と職員11人で1班。全12班に別れる。
50分間で企画名称、趣旨、内容広報手段を考える。
用紙に企画案をまとめる。



○プレゼンバトル

各グループで企画案を発表。3分間。
最も印象に残った企画案の投票。
表彰。



香川大学図書館中央館見学

2日目の昼からは香川大学図書館中央館の見学をしました。

島根大学附属図書館と共通している所、違う所など、見るところが多くとても参考になりました。



大学図書館が提供するべきサービスについて考える良い機会になった。コミュニティ形成の場として利用してもらえるように企画を行いたい。企画案を短時間で考えることの難しさを知った。他大学の活動を開き、島大との違いが多くあったので今後工夫のしようが様々あるように感じた。
(林)

まとめ

図書館=本を借りる場所



図書館=コミュニティの形成・発展の場所

大学・図書館・学生・職員・教員・地域のつながりをより良いものにし、共有する場所の提供

そのためには ...

人と人とを結ぶ企画づくりや多くの人に知ってもらうための広報、
コンシェルジュ以外のコミュニティへの呼びかけや連携が重要である。